

研究分野のキーワード：発達臨床心理学，特別支援教育，動作法，肢体不自由，自閉症

## 研究紹介

私は、これまで、また現在も、肢体不自由児、知的障害児、自閉症児など様々な障害児に対する発達支援に関心を持ちながら実践活動を続けており、特に動作法を中心とした発達支援活動を中心に行っています。

動作法とは、全国各地の特別支援学校（特に肢体不自由領域）でも多く活用されている発達支援技法であり、動作法による発達支援（訓練）は、保護者からもニーズが高く、全国各地に訓練会組織があります。夏期休暇などには宿泊形式での訓練キャンプ（研修会）が全国各地で行われており、私も、県内外の各地に伺い、指導に関わっています。

本学でも障害児教育棟にて、月例の訓練会（大規模）や週例での小訓練会も実施しており、それぞれ、子どもの訓練や保護者の相談、学生の指導にあたっています。これらの実践活動は、特別支援学校に多く就職している本課程の学生にとっては、教育現場にも直結する実践的な力を養うための貴重な実践経験の場であり、発達支援の技術だけでなく、障害のある子どもに関わる際に必要な様々な点について体験を通して学ぶことのできる場となっています。

私自身、こういった実践活動に関わりながら、教育現場に通用する実践的な力を持った学生を育てていくことを特に意識して日頃から学生の指導にあたっています。また、このような実践活動を通して実践経験を重ねていくとともに、このような活動の中から、発達支援の事例研究や動作法に関する様々な研究を進めています。

なお、こういった発達支援の支援技法は、肢体不自由の特別支援学校において特に必要とされる面が多く、私自身、上記の大学での実践活動だけではなく、県内の肢体不自由特別支援学校に定期的に巡回相談に伺っています。また、県内外での研修会や本学主催の公開講座、県の認定講習会など、現職教育についてもできるだけお引き受けしており、このような領域に広く貢献していきたいと考えています。